

ガバナーメッセージ

5月は『青少年奉仕月間』

国際ロータリー第2590地区ガバナー **小倉 正**



さわやかな初夏の季節となり、本年度も残すところあと2カ月となりました。3月下旬には、新型コロナウイルスに対する「まん延防止等重点措置」が解除され、各クラブにおきましては、通常例会への移行が進みました。しかしながら、新規感染者が劇的に減少したとは言えず、当地区の諸行事等運営については引き続き感染防止対策を施して進めて参ります。3月には2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻による国際ロータリーからの声明、ロータリー財団のウクライナ地域での直接的な人道支援の窓口設置に対する地区内クラブへの「ロータリー災害支援基金」のご案内をさせていただきました。そして、年初にお預かりいたしました他地区被災地への義援金の残金と本年度の地区財団活動資金(DDF)の一部に本年度の特別会計(事業費)からの出金を合わせ、約10万ドルを4月末にロータリー財団へ拠出したしました。(P11ご参照)

さて、本年は3年に1度の規定審議会の年であり、4月10日～14日までの5日間シカゴでハイブリッド方式で開催され、当地区の代表議員として高良 明パストガバナーが参加されました。規定審議会とは、国際ロータリーの立法機関であり、ロータリーの基本的な文書(組織規程文書)である国際ロータリー定款・細則、そして標準クラブ定款を改訂する権限を持つ唯一の立法機関です。本年度の注目する点は2018年に発足した「未来形成委員会」からの改革案です。6年間の地区モデルでの実験を行って、ロータリーの行動計画(戦略計画)の参加者の積極的なかわりを促し、適応力を増すといった目標達成のためのガバナンス構造の変革であり、国際組織として、すべての地域を一律に地域に合った会員増強や地域社会奉仕に充分向き合うことが困難であるとの理由からの改革案で、パイロット地区の設定等が議題に上がっています。

次号で詳細についてはご報告したいと思っております。

ります。

次に5月のロータリー特別月間は『青少年奉仕月間』です。

青少年奉仕は若い人々の成長の育成を支援するプログラムを提供することです。このため、指導力育成活動、社会奉仕プログラム及び国際奉仕プロジェクトへの参加並びに世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムなどを通して、青少年に成長の機会と好ましい変化をもたらす活動といえます。ロータリーでは、青少年奉仕に対するプログラムとして、インターアクト、ローターアクト、ロータリー青少年指導者育成プログラム(RYLA)及びロータリー青少年交換の4つのプログラムがあります。

当地区には現在18のインターアクトクラブがあり、積極的に活動を行っており、4月24日には当地区がホスト地区となり第9回全国インターアクト研究会が開催され、Zoomウェビナー方式により約1,000名が参加されました。

ローターアクトクラブは2020年7月1日より国際ロータリーの構成員となりましたが、当地区での提唱クラブとの関係は従来通りです。ロータリー青少年指導者育成プログラム(RYLA)は今月14日～15日の1泊2日で『経験は、価値ある財産』をテーマに行われます。当日は登山が予定されておりますが、若い人々に混ざって私も参加していきます。

最後にロータリー青少年交換プログラムですが、新型コロナウイルスの全世界的感染拡大のため、国際ロータリー理事会により2022年7月1日まで青少年交換プログラムが全世界で一時的に停止しております。この間に地区内プログラムの改善を図り、プログラム再開準備にあたっております。

新型コロナウイルスは次々と変異株が出現し、未だ終息していませんので、会員の皆様も健康にはくれぐれも留意されることを祈念いたします。